

# 日本カリキュラム学会 第28回（岡山大学）大会プログラム

◆ 前 日 2017年6月23日（金） 15:00～17:00 理事会  
（岡山大学大学院教育学研究科 本館 407）

◆ 第1日 2017年6月24日（土）

受 付 9:30～ 岡山大学大学院教育学研究科 講義棟

10:00

<b>課題研究 I</b> カリキュラム改善のための カリキュラム評価	<b>課題研究IV</b> <small>クリティカル・エデュケーション</small> 批判的教育学の課題と展望 <small>クリティカル・ポイント</small> -新学習指導要領の臨 界 点 -
---	---

12:00

13:00

新理事による理事会（講義棟 5207）・昼食

15:15

15:30

自由研究発表 I

休憩

18:00

18:30

**公開シンポジウム**  
新学習指導要領は各学校の教育課程をどう変えるのか  
—学校における教育課程編成の行方—

移動

20:30

研究交流会

◆ 第2日 2017年6月25日（日）

受 付 9:30～ 岡山大学大学院教育学研究科 講義棟

10:00

自由研究発表 II

12:15

13:30

総会（講義棟 5202）・昼食

15:30

<b>課題研究 II</b> 今日のカリキュラム改革と 公教育のあり方	<b>課題研究 III</b> 現代日本の教育課程政策に おける政治・行政・経営を めぐる諸課題（その3）
---	--

# 大会参加要領

## 1. 会場

岡山大学大学院教育学研究科

(岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学津島キャンパス)

アクセスについては、下記のサイトをご参照ください。

<https://edu.okayama-u.ac.jp/access/>

## <交通案内>

○岡山空港から：岡山駅行き「特急」バスで「岡山大学筋」下車

○JR岡山駅西口バスターミナル22番乗り場から：

【47】系統「岡山理科大学」行（岡電バス）で「岡大西門」下車

○JR法界院駅（津山線）から：徒歩10分

○自家用車の場合の駐車場：学内に駐車できますが、有料です。

## 2. 受付

岡山大学大学院教育学研究科講義棟1階（2日間とも同じ場所です）

大会参加費	正会員	3,000円
	学生会員	2,000円
	臨時会員	3,500円

## 3. 昼食

大学構内の生協食堂（マスカット・ユニオン）をご利用下さい。

## 4. 研究交流会

岡山大学生協（ピーチ・ユニオン）にて行います。当日、受付にてお支払願います。皆様の積極的な参加をお待ちしています。

研究交流会参加費	4,000円
----------	--------

## 5. 宿泊斡旋

宿泊の斡旋はいたしません。ご自身で手配願います。

## 6. 事前受付

事前受付は行いません。当日、参加費を申し受けます。

## 自由研究発表要領

### I 発表時間：

自由研究の発表時間は、原則として下記の通りです。

個人研究発表	発表 20 分	質疑討議 5 分	(計 25 分)
共同研究発表	発表 40 分	質疑討議 10 分	(計 50 分)

### II 発表資料：

発表資料等は、発表者各自で配布分（70 部程度）をご用意の上、当日の発表開始 10 分前までに各会場の係員に提出して下さい。大会事務局では、追加の印刷は出来かねますのでご了承ください。また、事前に送付することはお控え下さい。

### III 発表用機材：

自由研究発表のお申込み時にご連絡を頂いた機材に限り、分科会会場に準備しておきます。機材を使用する予定の発表者は、各自で事前に動作確認を行ってください。なお、使用希望機材のうち、液晶プロジェクターにチェックされた場合、パソコンならびに接続ケーブル（特に Mac ユーザー）などは各自でご用意願います。

自由研究発表 I 及び II の分科会の発表題目の後ろに\*と記しているのは、液晶プロジェクターを使用することを示しています。

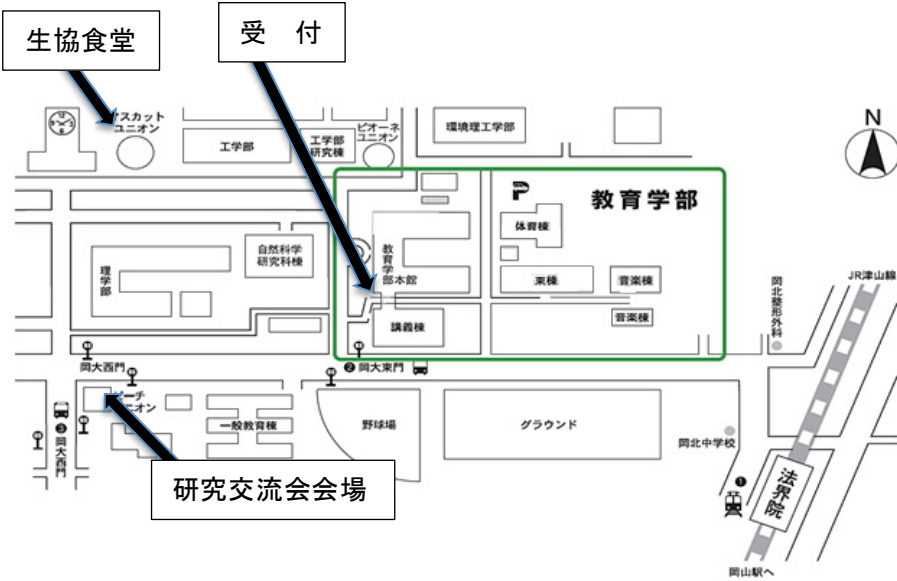
### IV 発表中止の場合

発表を取りやめる場合は、必ず事前に大会実行委員会までご連絡ください。なお、発表時刻の繰り上げは行いません。

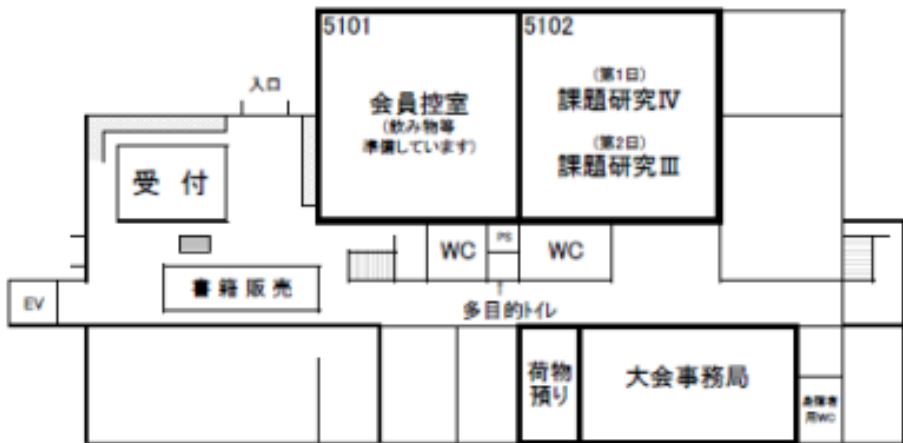
# 会場案内図

## <受付・生協食堂・研究交流会会場>

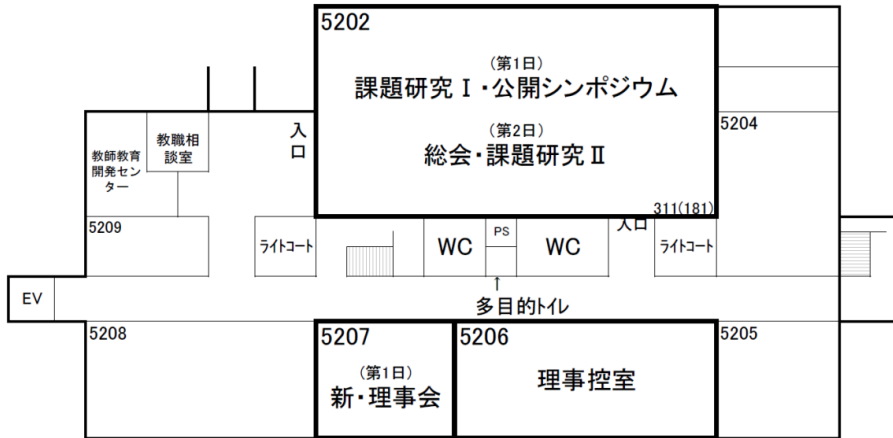
- 東門から入り，右手にある「講義棟」へお越し下さい。
- 自家用車は東門から入り，駐車ゲートを通して駐車スペースへ。



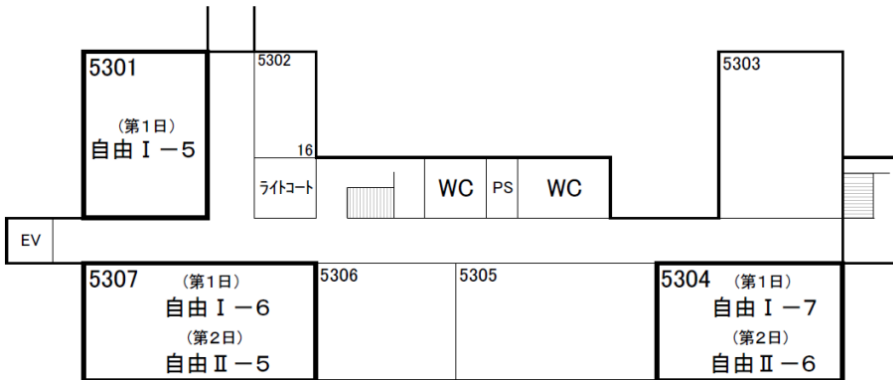
## <講義棟 1階>



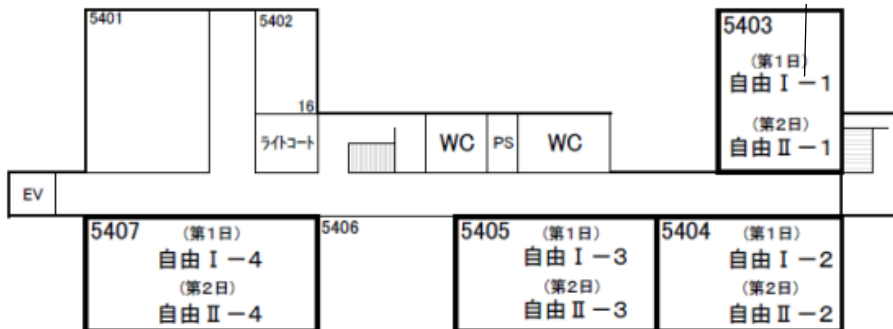
<講義棟 2階>



<講義棟 3階>



<講義棟 4階>



第1日（6月24日）10:00～12:00

課題研究 I カリキュラム改善のためのカリキュラム評価

5202

趣旨説明：

課題研究 I では、カリキュラムとして設定される目標・内容、カリキュラムの実践と評価の検討に取り組んでいる。第 26 回大会では「『資質・能力』の育成をどう考えるか」、第 27 回大会では「カリキュラム研究からみたアクティブ・ラーニングの検討」をテーマとした。第 28 回大会では、カリキュラム改善につながるカリキュラム評価の在り方に焦点を合わせたい。

新学習指導要領では、カリキュラム・マネジメントが推奨されている。しかしながら、学校がカリキュラムの編成・実施・改善を進めるに当たっては、ややもすれば学習指導要領のみを前提として目標が管理される、統一的な学力テストの結果、あるいは関係者を対象としたアンケート調査のみによって評価を行う、といった実態も見受けられる。

そこで、本課題研究では、カリキュラム改善につながるようなカリキュラム評価の在り方について、理論的・実践的な蓄積を踏まえつつ、今後の展望について探りたい。

発表者：

カリキュラム評価の理論的到達点と課題

根津朋実（筑波大学）

学力調査を生かしたカリキュラム評価のあり方

ードイツとの比較を通してー

原田信之（名古屋市立大学）

年間を通した子どもの自己の成長の振り返りを基にしたカリキュラム評価

岡田さつき（福山市立水呑小学校）

指定討論者： 田村知子（岐阜大学）

司 会： 村川雅弘（甲南女子大学）

藤川 聡（北海道教育大学）

コーディネーター： 村川雅弘（甲南女子大学）

藤川 聡（北海道教育大学）

西岡加名恵（京都大学）

第 1 日 (6 月 24 日) 10:00~12:00

課題研究Ⅳ クリティカル・エデュケーション 批判的教育学の課題と展望  
— 新学習指導要領の臨 界 点 — クリティカル・ポイント

5102

趣旨説明：

批判的教育学は、1970 年代後半以降、主に北米で展開されてきた、ネオ・マルクス主義の系譜に連なる教育研究で、教育をめぐる様々な権力関係・不平等問題に焦点化する点に特徴があり、これらに関する分析、及び社会的に不公正な教育状況への異議申し立てやその是正・変革に向けた提案を理論・実践両面で蓄積してきた。この研究分野が、北米の教育研究で固有の領域として自律化するのには 1970 年代末～80 年代前半のことで、爾来 30～40 年にわたって、理論的基盤及び研究方法・対象の拡充が図られるとともに、北米にとどまらない世界の多くの国々にこの分野に属する多くの研究者を生み出すという研究の国際化が進展してきた。こうした中で 8 年前には、その時点での集大成的な概説論集、Michael W. Apple, Wayne Au, Luis Armando Gandin(eds.), *The Routledge International Handbook of Critical Education*, Routledge, 2009 が刊行され、昨年には、その邦訳『批判的教育学事典』（明石書店）が、本学会員から多くの翻訳者を得て刊行され、昨今世界各国で顕著な政治状況の右傾化や格差問題が問題視される状況を背景として、本学会でも再びこの研究分野にスポットライトを当てべき時がやってきたように思われる。

他方で、かつて、この種の研究には、現状の批判的分析に止まり、それに対する明確な代案が示されない、あるいは、あまりに理論志向が目立ち、現場レベルでの具体的改善策に結びつかないといった批判が差し向けられることも少なくなかった。けれども、1990 年代後半以降、こうした課題を踏まえた、より実践的な諸問題の解決に資することを目指す研究も多く現れるようになった。

こうした経緯に鑑みると、批判的教育学に関するセッションを、単にその先端的な研究動向の紹介にとどめることなく、その視点を活用・応用して、目の前のアクチュアルな教育状況の諸問題を解き明かし、可能な提言的考察を試みることも視野に収めて企画することが考えられてよいだろう。そこで、本課題研究では、日本で、今年度以降対応を迫られる喫緊の課題としての新学習指導要領に関して、批判的教育学の研究成果に基づいて論評し、新学習指導要領が孕む諸問題をできるだけ具体的に明らかにし、その問題解決の方向性について理解を深めることを目指したい。むしろ、それは学習指導要領をもっぱら否定的にのみ取り上げることを意味するのではなく、一定の意義を十分に踏まえつつ、その臨界点を見極める作業を目指すものと言えよう。

**発表者：**

批判的教育学とその今日的意義：新学習指導要領批判への示唆

澤田 稔（上智大学）

ジェンダー・セクシュアリティの視点から見た新学習指導要領の諸課題

米村まろか（中部大学）

批判的教育学のカリキュラム研究への応用と実践：教師教育と学校づくりの視点から

田中統治（放送大学）

指定討論者： 上地完治（琉球大学）

司 会： 長尾彰夫（プール学院大学）

浅沼 茂（立正大学）



第1日(6月24日) 13:00~15:15

司会は五十音順

自由研究 I - 1	5403
------------	------

司会 磯田文雄 (名古屋大学)  
水原克敏 (早稲田大学)

- 13:00 学習指導要領の法的性格の変容  
磯田文雄 (名古屋大学)
- 13:25 高等学校の新学習指導要領について  
-教育課程編成と理数科の課題-  
\*  
大西俊弘 (龍谷大学)
- 13:50 カリキュラム・マネジメントに関する研修の開発  
-演習を含め短時間で取り組める内容の工夫-  
\*  
吉富芳正 (明星大学)
- 14:15 「学び続ける教職員像」を実現するための研修体制及び、研修プログラムの開発  
-県・市教育委員会と大学との連携強化を通じて-  
\*  
○磯部征尊 (愛知教育大学)  
倉本哲男 (愛知教育大学)
- 14:40 教育課程行政とカリキュラム研究  
安彦忠彦 (神奈川大学)

全体討議 (15:05~15:15)

自由研究 I - 2	5404
------------	------

司会 中野和光 (美作大学)  
伏木久始 (信州大学)

- 13:00 考え議論する道徳科の実現  
教材の取扱いと指導のあり方をめぐって  
\*  
内田卓雄 (沼津市教職員研修センター・常盤大学大学院)
- 13:25 「特別の教科 道徳」の設置に至る背景  
白杵龍児 (日本大学大学院)
- 13:50 道徳科の年間指導計画作りにおける主題の配列法に関する一考察  
中野真悟 (刈谷市立日高小学校)
- 14:15 国際的視野からみた中学校「学級活動」のカリキュラムの特色  
-フランスの「学級生活の時間」との比較を通して-  
\*  
京免徹雄 (愛知教育大学)

全体討議 (14:40~15:15)

第1日(6月24日) 13:00~15:15

司会は五十音順

自由研究 I - 3

5405

司会 安藤輝次(関西大学)  
小泉祥一(白鷗大学)

- 13:00 小学校、中学校の外国語科(英語)カリキュラム編成の実際  
ー「言語活動」の高度化へ向けてー \*  
齋藤嘉則(香川大学大学院)
- 13:25 中学校・小学校の「外国語」(英語)における教育英文法の編成原理  
大竹政美(北海道大学)
- 13:50 進展する科学的な知見を理科カリキュラムにどのように取り込むか  
~「地向斜からプレートテクトニクスへ」「エングレー分類体系からAPGⅢ・Ⅳ分類体系へ」を事例として~ \*  
長島康雄(関東学園大学)
- 14:15 私の「算数・数学の小中連携」研究を振り返る \*  
井上正允(元 佐賀大学)

全体討議(14:40~15:15)

自由研究 I - 4

5407

司会 木原俊行(大阪教育大学)  
藤川 聡(北海道教育大学)

- 13:00 教科の本質に向かう学びを守るための新領域の開発  
ー裁判を題材にした2領域の単元開発を通してー \*  
小野智史(香川大学教育学部附属高松中学校)
- 13:25 豊かな表現と深い学びを育む教育課程の創造  
ー「コミュニケーション能力」「創造的思考力」を育成する新領域  
「創造表現活動」の可能性ー \*  
増田一仁(香川大学教育学部附属高松中学校)
- 13:50 「総合的な学習の時間」再活性化に向けた地域コーディネーター  
の役割・機能に関する調査研究 \*  
岩崎保之(新潟青陵大学)
- 14:15 ものづくり学習における失敗場面を活用したカリキュラムの一試  
案 \*  
○藤川 聡(北海道教育大学)  
安東茂樹(広島国際学院大学)  
水上丈実(北海道教育大学)

全体討議(14:40~15:15)

第1日(6月24日) 13:00~15:15

司会は五十音順

自由研究 I - 5

5301

司会 西岡加名恵(京都大学)  
横松友義(岡山大学)

- 13:00 次世代型学力を見据えた生活科で育む学びに向かう力 \*  
加納誠司(愛知教育大学)
- 13:25 アメリカの保育の質評価・向上システム(QRIS)における学習スタンダードとカリキュラム \*  
三品陽平(中部大学)
- 13:50 〈学び〉の「場所」についての一考察  
~高知県高岡郡梶原町立四万川小学校の総合実践『坂本龍馬脱藩の道ウォーク 186km への挑戦』を手掛かりにして~ \*  
原田三朗(愛知県豊川市立御津南部小学校)
- 14:15 戦後日本の師範学校附属幼稚園において推進された新しい保育の特質  
-保育計画論に焦点を当てて- \*  
小尾麻希子(武庫川女子大学)

全体討議(14:40~15:15)

自由研究 I - 6

5307

司会 佐長健司(佐賀大学)  
田村知子(岐阜大学)

- 13:00 教職課程履修学部生と教職大学院学部直進生の意識に関する調査研究  
-開放制の教員養成と教職大学院とを接続させるカリキュラム開発を目指して- \*  
○宮下 治(順天堂大学)  
倉本哲男(愛知教育大学)
- 13:25 ペア類型から見たペア学習の教育効果の検証  
-日本人対象の教職科目の授業を例にして- \*  
福本義久(四天王寺大学)
- 13:50 反省的思考の育成を目指した教師教育カリキュラムを補完する独習法の可能性 \*  
山田雅彦(東京学芸大学)
- 14:15 高等学校専攻科からの大学編入学制度創設に関する一考察  
-中等教育としての質の保証と教員免許の制度的矛盾- \*  
鶴田百々(九州大学大学院)

全体討議(14:40~15:15)

第 1 日 (6 月 24 日) 13:00~15:15

司会は五十音順

自由研究 I - 7

5304

司会 子安 潤 (中部大学)  
村川雅弘 (甲南女子大学)

- 13:00 質問紙調査に見る小中一貫教育実践校教員の教職アイデンティティ  
イ \*  
小柳和喜雄 (奈良教育大学)
- 13:25 教師集団によるスクール・ベースト・カリキュラム・マネジメント  
ー大阪教育大学附属平野小学校・新教科「未来そうぞう」の研究  
開発の場合ー \*
- 峯 明秀 (大阪教育大学)  
○松浦智史 (大阪教育大学附属平野小学校)  
○岩崎千佳 (大阪教育大学附属平野小学校)
- 14:15 鳴門教育大学附属中学校「未来総合科」の現代的意義を考える  
ー育成された資質・能力とカリキュラム・マネジメントー \*
- 鎌田明美 (阿南市立阿南中学校)  
○村川雅弘 (甲南女子大学)

全体討議 (15:05~15:15)

第1日（6月24日）15:30～18:00

公開シンポジウム

新学習指導要領は各学校の教育課程をどう変えるのか  
—学校における教育課程編成の行方—

5202

テーマ設定の理由：

教育課程というと年間授業時数配当表のことや年間行事計画のことがイメージされることが多い。学習指導要領解説には「学校において編成する教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である」とされているが、そうしたものとして教育課程は十分機能していない。

今回の学習指導要領の改訂においては、学校教育全体を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にすること、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めること、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図ることなどが求められている。こうした要請をふまえ、各学校では学校教育目標のあり方、指導の重点のあり方、授業時数配当のあり方等について検討を進めなければならない。

そこで、本シンポジウムでは、新学習指導要領をふまえ、各学校の教育課程編成はどう行なわれるべきか、その際にどのような教育課程に関する理解が必要か、どのような教育課程編成の際の検討事項があるか、学校教育課程の検討過程にカリキュラム研究はどう貢献できるのか等について、研究者、学校、教育行政等の立場から話題提供していただき、協議していきたい。

パネリスト：

工藤文三（大阪体育大学）  
池野範男（日本体育大学）  
橘慎二郎（香川大学教育学部附属高松小学校）  
徳山順子（早島町教育委員会）

指定討論者：

山下陽子（岡山大学）

司会・コーディネーター：

住野好久（岡山大学）

第2日(6月25日) 10:00~12:15

司会は五十音順

自由研究Ⅱ-1

5403

司会 倉本哲男(愛知教育大学)  
松下佳代(京都大学)

- 10:00 対話による知識の共同構築過程の形成的評価とカリキュラムマネジメント  
-「深い学び」を実現する授業構想力の強化- \*  
水野正朗(東海学園大学)
- 10:25 主体的な学びによる汎用性のある力を育成する方策  
-ICEモデルによる自己評価能力形成を核として- \*  
○石原陽子(プール学院大学)  
○福岡和歌子(堺市立熊野小学校)  
○青木寛典(堺市立平岡小学校)
- 11:15 「主体的・対話的・深い学び」を基盤としたスキル育成型カリキュラムの開発と実践 \*  
-高等学校の学校設定科目カリキュラムの開発と実践を通して-  
大塚雅之(大阪教育大学大学院)
- 11:40 上海のカリキュラム改革における基礎型・発展型・探究型カリキュラムの特徴に関する研究 \*  
于 凱麗(上越教育大学大学院)

全体討議(12:05~12:15)

自由研究Ⅱ-2

5404

司会 橋本美保(東京学芸大学)  
富士原紀絵(お茶の水女子大学)

- 10:00 加古川プランにみるカリキュラムの特質  
-明石 附小プランとの比較を通して- \*  
溝邊和成(兵庫教育大学)
- 10:25 勝田・梅根論争の再検討  
-和歌森太郎の所論をとおして- \*  
松本圭朗(福井大学大学院)
- 10:50 東井義雄のつまずきを生かす教育課程経営  
-ブルームの完全習得学習との比較を通して-  
齋藤義雄(東京家政学院大学)
- 11:15 ウィネットカ・プラン成立期における現職教育カリキュラムの開発  
-夏期教員研修プログラムの成立過程に着目して-  
宮野 尚(東京学芸大学大学院)
- 11:40 道徳教科化に向けた「いのちのつながり」を基にした新カリキュラムの検討  
-日本の歴史的背景からみたアクティブラーニングによる道徳教育の創造- \*  
作田澄泰(早稲田大学教師教育研究所)

全体討議(12:05~12:15)

第2日(6月25日) 10:00~12:15

司会は五十音順

自由研究Ⅱ-3

5405

司会 澤田 稔 (上智大学)  
田中統治 (放送大学)

- 10:00 主体的学び, 深い学びが成立する探究過程の創造  
: デューイの探究論再考 \*  
天間 環 (尚絅学院大学)
- 10:25 ヤコブ・ニューマンのクリティカル・ペダゴジー論  
-ヘンリー・ジルーとの比較を通して- \*  
植松千喜 (東京大学大学院)
- 10:50 正統的周辺参加論の検討  
-ユクスキュルの環世界の理論によって-  
佐長健司 (佐賀大学)
- 11:15 ゲーリー・プランのカリキュラム史的意義の再検討  
○角谷亮太郎 (東京学芸大学大学院研究生)  
塚原健太 (帝京大学)
- 11:40 ニュージーランドにおける「モダンラーニング」の教育理念とカリキュラム \*  
伏木久始 (信州大学)

全体討議 (12:05~12:15)

自由研究Ⅱ-4

5407

司会 宇都宮明子 (佐賀大学)  
片上宗二 (安田女子大学)

- 10:00 「対話」を方法原理とする社会科教育への方法論的アプローチ  
-M.リップマンの「子どものための哲学」プログラムの分析を通して- \*  
出野誉大 (岡山大学大学院)
- 10:25 総合社会科における総合概念の批判的検討  
-臼井嘉一の社会科カリキュラム論を中心に- \*  
堀田貴之 (愛知県立刈谷工業高等学校)
- 10:50 地理的概念の機能に着目した日米地理カリキュラムの比較研究 \*  
吉田 剛 (宮城教育大学)
- 11:15 占領下沖縄における八・四制下の人文科地理教育課程  
-人文科地理のガリ版刷り教科書を手がかりに- \*  
萩原真美 (お茶の水女子大学大学院)
- 11:40 歴史教育改革 RLH プロジェクトの再検討  
-Disciplinary Literacy 論に着目して-  
渡部裕哉 (東京大学大学院)

全体討議 (12:05~12:15)

第2日(6月25日) 10:00~12:15

司会は五十音順

自由研究Ⅱ-5

5307

司会 長尾彰夫(プール学院大学)  
根津朋実(筑波大学)

- 10:00 カリキュラムマネジメント評価の3手法の特徴の検証とシステムの試作  
ーカリキュラムマネジメントの評価手法の比較検討(4)ー \*  
○本間 学(中村学園大学) 根津朋実(筑波大学)  
村川雅弘(甲南女子大学) 田村知子(岐阜大学)
- 10:25 教師の至高体験から創発するカリキュラムデザインの方法  
ーハイポイントインタビューの活用とその効果を中心にしてー \*  
緩利 誠(昭和女子大学)
- 10:50 検証のための質問紙における効果応答時期の類型 \*  
正田 良(国士舘大学)
- 11:15 持続可能な開発のための教育(ESD)の評価の観点の設定に関する一考察 \*  
木村 裕(滋賀県立大学)
- 11:40 持続可能なフィードバックの方法  
安藤輝次(関西大学)

全体討議(12:05~12:15)

自由研究Ⅱ-6

5304

司会 工藤文三(大阪体育大学)  
八尾坂 修(開智国際大学)

- 10:00 実効性のある「カリキュラム・マネジメント」を考える  
~管理職経験をもとにした一考察~  
谷 智子(高知学園短期大学)
- 10:25 高校管理職のイメージする卒業時に就きたい学力 \*  
高木 亮(就実大学)
- 10:50 香港の小学校における学校に基礎をおいたカリキュラム開発の特徴に関する研究  
ー課程主任の役割に着目してー \*  
野澤有希(上越教育大学)
- 11:15 学校を基盤としたカリキュラム開発に資する学校長の役割と学び  
についての理論的検討 \*  
○島田 希(大阪市立大学)  
○木原俊行(大阪教育大学)

全体討議(12:05~12:15)



**設定趣旨：**

戦後日本の教育行政は、2006年までは、旧教育基本法をもとに行われてきた。旧教育基本法第10条では、「教育行政は、この自覚をもとに、教育の目的を遂行するために必要な諸条件の整備確立を目標として行われなければならない。」と規定されていた。2006年に制定された新教育基本法ではこの規定はなくなり、新学習指導要領では、よい人生を生きるという名目のもとに、国民の資質能力が、その育成の考え方で規定されて、国家によって管理されようとしている。世界全体を見ると、米国のコモン・コア・スタンダード、英国のナショナル・カリキュラムに見られるように、日本がモデルとした教師や学校や地方教育行政当局の主体性を重視する行政モデルが崩れ始め、中央集権的なカリキュラム改革が進行している。

このような事態は、欧米の市民社会モデルがもはや有効でなくなりつつあり、「総力戦体制からグローバリゼーション」（山之内靖）の時代（現代産業を組織する巨大企業の経営者のヘゲモニーのもとに、労働時間だけでなく、家庭の中の人々の思考や夢をも支配するようになる全体主義の時代）に入ったことを意味しているのだろうか。もし、そうなら、グローバリゼーションの時代において、人々の思想の自由、教育の自由、学問の自由を保障する民主主義社会にふさわしい公教育はどのようなあり方が考えられるだろうか。

本課題研究では、現在、米国、英国、EUで起こっているカリキュラム改革についての報告をもとにポスト資質能力の公教育のあり方を問う。

**コーディネーター・司会：** 中野和光（美作大学）  
的場正美（東海学園大学）

**提案者と題目**

1. 矢野裕俊（武庫川女子大学）  
NCLB法下の米国でのカリキュラム改革と公教育の動向
2. 志村 喬（上越教育大学）  
保守連立政権下における英国のカリキュラム改革  
－「知識」への回帰－
3. 吉田成章（広島大学）  
現代ドイツのカリキュラム改革  
－教育の自由はどのように守られているか－

## 第 2 日 (6 月 25 日) 13:30~15:30

**課題研究Ⅲ 現代日本の教育課程政策における政治・行政・経営をめぐるとの諸課題 (その 3)**  
— 学校の教育課程経営とそれに関わる地方教育行政を中心に —

5102

### 趣旨説明：

第 25 回大会(2014 年)の合同課題研究Ⅰ・Ⅱと第 26 回大会 (2015 年)の課題研究Ⅲでは、現代日本の教育課程政策における政治・行政・経営をめぐるとの諸問題・諸課題について、「政治と行政」の関係を中心に議論を深めてきた。それを踏まえ、第 27 回大会 (2016 年)の課題研究Ⅲでは、「教育行政内部」における政策形成過程、とりわけ中央教育審議会における審議過程に着目し、検討を行った。その結果、次のようなことが確認された。

第 1 に、学習指導要領改訂に見られるコンピテンシーに基づくカリキュラム構成については、領域固有の知識の軽視につながる。すでに米国では、資質・能力を目指すコンピテンシーに基づくカリキュラムは、強い批判を受け、「必須の知識、理解、技能の習熟、直接的明示的教授、教師主導、一斉教授」を重視するスタンダード・アプローチに向かっていると指摘がなされた。

第 2 に、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善では、「教えること」が抜け落ちてしまう。各教科で育む資質・能力の可視化・構造化作業や、課題把握(発見)・課題探究・課題解決という標準的な学習過程の用意が、逆に当初の計画を豊かに超える授業展開や教育実践を束縛し、子どもとの協働的な学びを制限することにならないかとの指摘がなされた。また、能動的・主体的な学びは、学習規律のあり方に関わり、人生に対する方向づけに関連するものであり、このように人間の良心に関わるものや内面的なものについては、外から課されるべきではないとの指摘がなされた。

第 3 に、複雑で変化の激しい社会の中で主体的・能動的に生きていくためには、単なる知識や技能の習得だけでなく、未来志向の能力の育成が重要であること。その能力は、横断的・総合的で、かつ現実的な文脈の中で育成されるものであり、環境教育や ESD は重要な視点を与えるものであり、東日本大震災以降、日本の置かれている条件や環境を見直し、その地理的、歴史的な文脈を踏まえ、日本人にとって必要とされる資質・能力の育成が必要であるとの指摘がなされた。

第 4 に、変化する社会経済状況への目配りの必要性や、資質・能力の育成を一単位時間の授業展開のみならず、単元全体や年間の計画、教科と教科外活動との関連などを見通して捉える必要性などが指摘された。

以上のような課題を受け、本課題研究においては、学校における教育課程経営過程に焦点を絞り、①学校における教育課程経営のあり方、ならび

に②それを教育課程行政がどのように支えるのかについて検討を行うことにしたい。とりわけ、新学習指導要領の総則を採り上げ、①学校における教育課程経営がどのように可能か、②教育委員会による教育課程行政が学校の教育課程経営をどのように支えることができるか、またそのための条件や課題などを中心に検討を行うこととしたい。

**提案者：**

学校における教育課程経営の意義と課題

小泉祥一（白鷗大学）

学習指導要領改訂を踏まえた教育課程行政の課題

石田有記（文部科学省）

市教育委員会における教育課程行政の取り組みと課題

小倉貴志（市川市教育委員会）

小・中学校における教育課程編成・実施・評価の課題

菊地真貴子（栃木県那須塩原市立横林小学校）

**司 会：** 磯田文雄（名古屋大学）

**コーディネーター：** 小泉祥一（白鷗大学）

石田有記（文部科学省）

